

○恋ひ恋ひて

作詞:大伴坂上朗女/三谷翔平 作曲:上野紘史 編曲:上野紘史 演奏:はるひの
withDODOWAKA

「恋ひ恋ひて 逢える時だに 愛(うるわ)しき 事尽くしてよ 長くと思わば」

(大伴坂上朗女)

▷万葉集 巻4-661

(こいこいて、あえるときだに、うるわしきことつくしてよ、ながくとおもわば)

意味:ひたすら恋い慕って、やっと逢えたときぐらいは、どうか愛の言葉を尽くしてください。この恋を長く続けたいと思うのであれば

解説:この歌は、大伴坂上朗女(おおとものさかのうえのいらつめ)が次女に成り代わって、婿である大伴駿河麻呂(おおとものするがまる)に贈ったものであるとされています。「言葉を尽くして愛を語って欲しい」と、恋心をつのらせている主人公。燃えるような恋心を歌っているながら、同時に男性に「長く続けたいと思うのなら」と諭しています。女にとって恋とは言葉なのよ、しっかりしなさい、と母たる自分のおメガネにもかなった求婚者を諭してもいます。

歌詞

1. 「なんでもないよ」と
今日もそっけないのね
やっと会えたのに
嬉しいの? つまらないの?
まさか自惚れてるの?
くじけそう 胸が痛い
ふたり辿り着いたんじゃないんだから

※Ah 恋ひ恋ひて

恋ひ恋ひて
逢へる時だに 愛(うるわ)しき言(こと)尽くしてよ 恋ひ恋ひて
逢へる時だに
愛(うるわ)しき言(こと)尽くしてよ
長くと思はば
思はば

2. 「わざとらしくて」
自分が思うことを
なんだか今さら
伝えるなんて苦手なんだ
一緒にいること
ほらねそれだけで僕らは
ずっとやっていけそうなんだから

*繰返し